

## 沈金

沈金は、漆を硬化させたものに文様を刻み、金粉や箔を充填して文様を表現する漆器の装飾技法である。1955年に重要無形文化財に指定された。

「沈んだ金」を意味するこの技法は、中国の宋の時代（960-1279）に生まれた。日本には室町時代（1392-1573）に沈金が輸入され、職人が研究を重ね、再現するようになった。

沈金とは、沈金ノミという金属製のノミで、固まった漆器に線や点を彫り込んで作るものである。職人は砥石を使い、刃先の形を整えながら、自分だけのノミを作っていく。丸みを帯びたもの、角ばったもの、鋭く尖ったもの、荒いものなど、形状や力の入れ具合によって、さまざまな効果が得られる。大胆に広がる線や、子猫の毛並みのような繊細なディテールも作り出すことができる。

文様を彫った後、濡れた漆を薄く塗っていく。その後、伝統的な手作りの紙（和紙）で表面を拭き、余分な部分を吸収させ、溝にほんの少し残す。金粉または金箔を綿毛で軽く叩いていく。この時、金は濡れた漆にのみ付着する。しばらくして余分な金属を拭き取ると、漆地と対照的にデザインが輝き出す。

現代では、特に石川県輪島市の漆器に沈金が施され、重要無形文化財保持者を複数輩出している。